

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100058		
法人名	アサヒケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム安らぎ 2階ユニット		
所在地	京都市西京区御陵谷町29-2		
自己評価作成日	2024年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年12月に北区から西京区に引っ越して、徐々に地域と関わり合いもできてきている。地域密着型施設として、入居者だけでなく、地域の高齢の方々にも利用してもらえるような、共用デイサービスを将来的には実施していきたい。入居者についても、指定医療機関との連携し、最後まで安心してホームで過ごしていただけるよう、最後まで手を離さない支援ができるよう、力を入れている。職員も施設移転にもかかわらず、勤続年数の長い職員も複数おり、長く安心して働ける環境作りに配慮しながら、新しい人材の育成にも力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2690100058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通り上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和6年3月7日		

1階に同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	ssssssssss	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階・2階ともに理念を掲示し、常に職員の目に触れるようにしている。会議の前には理念をみんなで唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	引っ越しにより場所は変わったが、地域密着型であることは変わりなく、町内会にも加入している。地域のかたにも利用してもらえ、自販機を施設敷地内に設置し休憩用のベンチもおいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの看板に「介護の相談承ります」と記載している。地域包括支援センターが発行した広報誌にも、「介護のよろず相談承ります」と記載した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	移転から2年間はコロナのため対面での会議ができなかった。ようやく令和5年3月にはじめて地域の方々と一緒に運営推進会議が開けるようになり、ホーム内の状況を報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者も数名受け入れており、行政からの入居の打診も多い。空室があれば、保護の方も同じように受け入れている。年度末には運営推進会議の議事録も提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会を立ち上げ、選出された委員が3か月ごとに会合を行っている。そこで話し合われたことは伝達研修として個々の職員につたわっている。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修は基本的には全員参加とし、虐待に当たる行為の確認を行い、虐待につながるような言動を職員間でも見逃さないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ズームによる研修などを利用し、利用者様の権利擁護を考慮しながら、自立支援に取り組んでいる。後見人制度も2名の入居者が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居予定者には事前に契約書や重要事項説明書を渡して内容についての疑問点などを契約当日に質問しやすい様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見ポスト」を設置している。いつでも記入できるよう、筆記具や用紙もあわせて用意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年4月と10月に職員の個人別面談を実施し、職員の要望や意見を聞く機会をも受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションを高くもって勤務に当たってもらえるよう、個々の職員の努力を見逃さないように心がけ、実績に対しては、前向きに評価していることを言葉で伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の自己評価と管理者評価により個々の職員の努力や勤務状況を把握し、モチベーションが高まるような勤務環境作りを心がけている。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの内部研修会に参加させてもらった。コロナ下ではなかなか交流がもてなかったが、今後は数人の職員が他施設の研修にも参加できるよう、シフトを組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、本人と会話をもち、不安なことなどを聞き取り、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後に家族の不安や要望を聞き取りし希望にそうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネで会話をやりとりし、必要な支援から実施できるケアプランを作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物の畳みなどの作業を依頼し手伝ってくれたことへの感謝を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のおたよりで、本人の日常生活の様子は事細かに伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた場所に関係のある印刷物はお見せしている。本人あての郵便物は必ず手渡している。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員が間に入り一緒に作業したり、共通の 話やリクレーションを行い関われるようにし ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了する理由は死亡された時な ので、家族と機会があれば挨拶する程度に 留まっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人が暮らしていた時の物や服などを居室 内に備え、本人の意向に沿うよう、話をし、 実施できるようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	今まで行っていた美容院や病院は希望が あれば行ける場所なら、職員が付き添って 利用してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	心身の状態など把握し、できることはして頂 き、 本人がしたいことをして過ごしていただい ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ひとつひとつのケアプランに対し、本人に あっているか、できるかを日々の暮らしの中 で実施できるようしている。3か月ごとにモニ タリングを行い現状を根拠に基づき分析し ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有ながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活で気づいたことは記録に残し、訪 問看護や往診、ケアプランなどの項目ごと に記入している。共有すべき記録につい ては申し送り項目として上げている。ケアプ ランの項目はモニタリングの根拠として利用し ている。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内で出来ないサービスについては外部から入ってもらい、訪問歯科診療やマッサージを個別に実施してもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会福祉団体が主催する行事に参加してもらえるよう、回覧板などにも目をとおしている。昨年は地藏盆の抽選会に出向き、くじ引きをしてもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば家族につきそってもらいかかりつけ医に受診してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録の項目に訪問看護宛てのものを作り、ケガや体調不良など伝えたいことや気づいたことはその項目で記録している。また、逆に訪問看護からの報告や処置の項目も作り、申し送りし、情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず1週間に1度程度様子を見に行き退院できそうに思えた時はこちらからドクターに意見を聞いている。また管理者がドクターとメールのやりとりができるようしているため、情報も状況の変化があれば、昼夜を問わず、知ることが出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤な病状の場合は家族にも知り得た情報は正確に伝えている。逆に家族からも見舞いの時のようすなど、問い合わせ、今後の方針を情報共有のもとに話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急な状況の場合の対応をまとめたものをリビングで保管しており、研修を通じて応急手当や初期対応を共有できるよう機会をつくっている。必ず、管理者に報告するように、とも周知している。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPは作成済み。移動が困難な入居者が多いため、職員だけの避難は難しく、救護を迅速に受け入れることが出来るようするには、何をすべきかを中心に避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との会話や声掛けで不適切なものがあったり、違和感を感じた時は職員間で、注意するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの時に服を選んでもらったり、朝食時の飲み物を選んでもらったりしている。お風呂についても、無理強いすることなく、ご本人の意向もうかがいながら、入浴をしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴されない利用者様については温タオルを毎朝提供している。利用者から要望があれば待たせることなく、話をまず、お聞きし、優先順位を利用者本位としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや整容、化粧などができる環境作りを心掛けている。本人が言い出さない時はこちらから声掛けを行い、その人らしさが継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作る時に、利用者の食べたいものを教えてもらう事もある。調理の準備の際には、玉ねぎの皮むきなど出来る事はお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し体調管理に活かしている。食事量が少なくなったと感じた時は、くだものなど、食べやすいものに置き換えたりして、食事量の低下に気を配っている。麺類を食べない利用者には別メニューを用意している。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のケアに加え毎食お茶を最後に人で頂いたり、口腔内に食べかすが残らないようしてもらっている。寝る前には歯磨きをし、義歯は職員が清潔にしている。希望者には訪問歯科による口腔内の掃除もしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のわかる利用者はその都度、トイレに誘導し、排泄介助をしている。排泄がわからない利用者は定期的にトイレ誘導をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師に排便コントロールプランを作ってもらいそれによって便秘薬を飲んでもらっている。水分量も少なくならないよう記録し、工夫して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルに問題が無ければ、いつでも入浴してもらえるよう準備している。声掛けで入浴を薦めるが、嫌がられる入居者には無理強いせず、時間や日にちをかえて、入浴の声掛けをし、本人が了解されたタイミングで入浴してもらっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居眠りが多すぎないように、声かけをしている。夜間は居室の空調管理を行い、眠れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	iPadに薬の情報を登録し、いつでも簡単に服薬が確認できるようしている。薬の変更や服薬後の様子観察なども職員で情報共有し、抜薬などの対応があれば、看護師にも報告し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	退屈な時間を作らないよう、調理の準備や洗濯物たたみなどを手伝ってもらい、感謝をことばで伝えている。レクも個々に楽しんでもらえるような手作業や体操も取り入れメリハリのある生活を送ってもらえるように心がけている。		

京都府 グループホーム安らぎ 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	近所に散歩に出かけたり、希望があれば買い物に職員が同行して実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失される事が多いので、利用者の小遣い金は日常生活費として事務所で預かっている。欲しいものがあれば、そのお金で買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望があれば、施設の電話をつかってもらっている。手紙は年賀状など、書くように薦めているが、文字が書けなくなっておられ、自分からは書かれないが、届いた手紙は渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の草花をかざったり、季節にふさわしい飾りで壁を華やかにかざっている。利用者の写真も同様に飾っている。室温はもちろん湿度にも気配りし、快適な空間となるようしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブルに座っていただく際はあらかじめ気の合う人が隣になるよう、考慮して座ってもらっている。また落ち着いた座りたい時は一人用の小さなテーブルに座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は以前から使用しておられる私物を出来るだけお持ちいただいている。どの部屋にも時計をかけたリ、カレンダーをかけるなどして不便を感じないよう過ごしてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来なくなったことに目を向けるのではなく、出来るかもしれないことも視野に入れた個人の持つ力が継続できるような支援をしている。目で見てわかるような工夫も取り入れている。		